

2010 関西トレセン U-14 リーグ第5節活動報告

【報告者】 土井和則 (和歌山県トレセンスタッフ)

日 時：2011年 1月23日 (日)

会 場：堺市立ナショナルトレーニングセンターS3 ピッチ(天然芝)

和歌山県トレセン U-14 参加選手			
背番号	氏 名	ポジション	所属チーム名
1	瀬見礼矢	GK	セレッソ大阪和歌山 U-15
2	南垣内萌生	MF	F C和歌山V I V O
3	平田朋	MF	F C和歌山V I V O
4	田中エリキ優一	MF	セレッソ大阪和歌山 U-15
5	野口裕人	MF	H.L.P デポルターレ U-15
6	上須啓太	MF	セレッソ大阪和歌山 U-15
7	狗巻遼	D F	ミラグロソ海南 S C
8	畔取舜介	D F	F C和歌山V I V O
9	小林直人	D F	H.L.P デポルターレ U-15
10	東山亮介	MF	和歌山大学附属中学校
11	西垣内佑亮	F W	近畿大学附属和歌山中学校
12	梶川恭佑	D F	田辺市立 東陽中学校
13	岩橋佑真	F W	F C和歌山V I V O
14	加佐怜人	MF	セレッソ大阪和歌山 U-15
16	増田嵩人	G K	H.L.P デポルターレ U-15

※12番 梶川恭佑 怪我のため欠席

テーマ：・攻守とも観て良い判断

・攻守の切り替えを速く、準備も含めて常に関わる

攻撃：周りを観る

攻撃の拡がり、逆サイドの意識

守備：1stDF 決定、カバーの意識、チャレンジ&カバーを繰り返す

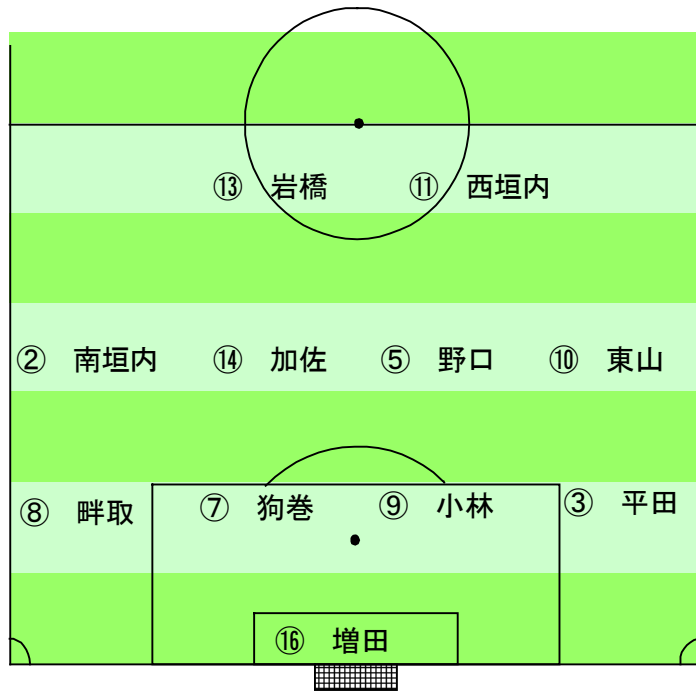
厳しいところこそポジションをとって良い準備

守備は狭くブロックの形成

12:15 kick off (30分-5分-30分)

和歌山県トレセン U-14 対 奈良県トレセン U-14

3 $\left[\begin{array}{cc} 1 & - & 6 \\ 2 & - & 5 \end{array} \right]$ 1 1



〈交代〉

時間	OUT	IN	備考
30分	②南垣内	④ 田中	
30分	③ 平田	⑥ 上須	
30分	⑯ 増田	① 瀬見	
47分	⑬ 岩橋	②南垣内	CB⑭加佐、Vo⑥上須
54分	⑩ 東山	③ 平田	

〈得点〉

時間	チーム	得点者	得点経過 (～:ドリブル →:グラウンダーパス ◯浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
5分	奈良		(中央)◯GK キャッチミス
11分	奈良	⑨	(左)CK⑦◯(中央)⑨右足S
12分	和歌山	⑬ 岩橋	GKパスカット(中央)⑬ミドル右足S
13分	奈良	⑬	(右)⑨→(右)⑩→(中央)⑬右足S
15分	奈良	⑦	(右)→(中央)⑦ミドル右足S
26分	奈良	⑦	(右)⑩◯(中央)⑨→(右)⑦右足S
28分	奈良	⑨	(左)⑩◯(中央)⑨右足S
32分	和歌山	⑪ 西垣内	(左)⑭→(中央)⑤→(中央)⑪右足S
33分	奈良	⑪	(右)⑩→(右)⑪～(中央)右足S
38分	奈良	②	クリアボール(中央)②右足S
47分	奈良	⑨	(中央)⑦→(中央)⑨右足S
48分	和歌山	⑨ 小林	(中央)⑩→(右)⑨右足S
57分	奈良	⑩	(中央)⑧～→(中央)⑩右足S
57分	奈良	⑧	(左)⑩◯(中央)⑧HS

【成果】

○味方GKボール時にサイドバックが高いポジションをとり、セカンドボールを保持し中央からサイドへの有効な攻撃 ⇨ 得点

【課題】

- 動きの質と量(プレーを止めない、やりきる)
- 1対1のオフの準備ができていないため、エリア内でボールウォッチャーになり相手がフリーな状況をつくりだしてしまう。
- アプローチにいて制限を加えてもそこで終わってしまう。相手が苦しい状況にある時は連続してプレッシャーをかけ続けボールを奪いきる。
- ボール周りの選手が全員ボールに食いついき、相手、味方、スペースを視野に入れたポジショニングがとれずポジションバランスが悪くボールサイドにフリーマンをつくり、ワンタッチパスで簡単に突破されてしまう。
- 相手のサイドチェンジに対して、最終ラインがスライドしながらマークを受け渡すことができず結果的にマークのズレが生じて相手に裏をとられてしまう。
- サイドの高い位置からのプレスとパスコースの限定が甘く、チームで連動してディフェンスできていない。また、その際の逆サイドの絞りがあいまいになっている。
- 守備から攻撃に切り替わっても準備が遅くピッチを広く使うことができない。また、サポートの距離感が悪く逆サイドのアクションがない。
- GK ボールに対して早く幅・厚みを意識した良いポジションをとることができなため、単調なキックで逃げてしまう。
- 攻撃が片サイドに偏り、逆サイドにフリーな味方がいて展開できず、効果的な攻撃につなげられなかった。ワイドな攻撃をすることにより、相手守備陣を拡散させ攻撃しやすくするプレーの原則が生かされていない。
- サイドバック、サイドハーフの位置が低く攻撃参加(ビルドアップにかかわったり、オーバーラップなど)があまり見られない。
- FWのオフのかけひきがなく、スペースに出て行かずに足元を要求する場面が多い。自分とボールとの関係で動くことはできても、味方がどのスペースを狙っているかを観ていないため、動きが重なり上手くお互いにスペースをつくり、使うことができていない。